

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成 29 年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
29-6	生産性向上とライフサイクルコストの削減に資する膨張材併用軽量床版の研究開発	東京大学 教授 岸 利治	B
<p><研究の概要></p> <p>要求性能に応じて膨張材添加量を 3 段階に設定できる膨張材併用軽量コンクリート床版の開発を行うとともに、単位水量の少ない土木用の配合で軽量コンクリートをポンプ圧送により確実に施工する技術を構築する。</p> <p><中間評価></p> <p>研究の進捗状況は概ね順調であり、研究成果の見通しがある程度期待できることから、指摘事項に留意しつつ、成果の普及の見通し等を明らかにして、現行のとおり推進することが妥当と評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 次元状態のコンクリートの微細構造の疲労による変化が、膨張剤、鉄筋による拘束、コンクリートの厚さによる拘束圧効果の影響を受けると考えられることから、膨張材、鉄筋配置、床板厚さによるメカニズムの変化の有無を確認した上で成果を取りまとめていただきたい。 2. 膨張剤添加量の異なる 3 段階の各メニューをどの様に使い分けるのかの具体的な内容まで研究成果として示していただきたい。 3. 開発された製品の適用により、どれだけのコストメリットが生じるのかについて検討していただきたい。 4. 成果の首都高以外の道路への汎用性に向けての対応方針を明らかにして頂きたい。 5. 経費の大半を占めている外注費の削減が必要であり、例えば疲労試験の効率的な実施について検討していただきたい。 			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 34 回新道路技術会議において審議したものである。